

～人と環境にやさしい新技術～

「シール位置検出・カット位置制御装置」 ついに登場!!



高感度CCDカメラがシール位置を検出し、シール幅が一定になるようカットします

シール位置検出はCCDカメラにおまかせ!

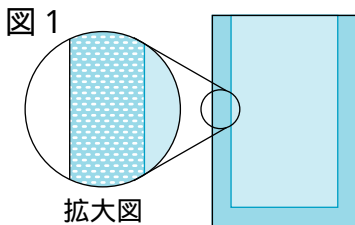


図1
シール目 (イメージ図)

一般的にラミネートフィルムを熱シールしますと、図1の様にフィルム表面に「シール目」と呼ばれるグラスウールテフロン網目の模様が残っています。この「シール目」をCCDカメラで検出することにより(画像処理をして)シール位置を認識します。シール部の収縮やカール、印刷柄との区別、アルミ表面の反射などの問題をクリアし、ほとんどの包材のシール位置検出が可能です。(マットインクで表面印刷されたものなど、一部検出できないフィルムもございます。)

カット位置はサーボモータ制御!(手動によるカット位置調整は不要!!)

CCDカメラにより、認識したシール位置に対してカット位置をどの位置にするかを設定することができます。(カッターをサーボモータにて制御しているため)製袋中に手動でカット位置を調整する必要はありません。



フィルムのムダが減少、ゴミの減量、省資源に役立ちます。

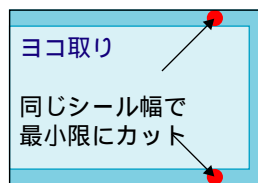
三方シール、スタンドパック、ヨコ取り製袋の場合(図2)

従来、印刷やフィルムによっては袋のサイドシール幅に変動が生じ、余裕を持った広いシール幅が必要な場合がありますが、この余分なサイドシール幅を減らすことができます。

三方シール、タテ取り製袋の場合(図3)

背貼製袋(センターシール)の場合(図4)

図2



「シール下」の幅を最小限にカット

図3



開口側

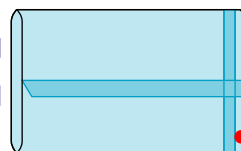


図4

「シール下」の幅を最小限にカット

開口側がシールされないために必要だった「シール下」が大幅に狭くできます。

無駄となる部分が減ることでラミネートフィルムの消費量が減少します。